

社会福祉法人大田幸陽会法人本部

令和元年度 事業報告

1 評議員会

定時評議員会	招集：6月11日 開催：6月26日 議案5件、報告5件 評議員総数11名：出席11名、欠席0名 監事総数2名：出席1名、欠席1名
第2回	招集：10月29日 開催：11月7日 議案2件、報告2件 評議員総数11名：出席10名、欠席1名 監事総数2名：出席1名、欠席1名
第3回	招集：3月19日 開催：3月27日 議案4件、報告7件 評議員総数11名：出席10名、欠席1名 監事総数2名：出席1名、欠席1名

2 理事会

第1回	招集：5月21日 開催：6月11日 議案10件 報告6件 理事総数9名：出席9名、欠席0名 監事総数2名：出席2名、欠席0名
第2回	招集：手続き省略 開催：6月26日 議案4件 報告2件 理事総数10名：出席9名、欠席1名 監事総数2名：出席1名、欠席1名
第3回	招集：9月20日 開催：10月29日 議案8件 報告4件 理事総数10名：出席10名、欠席0名 監事総数2名：出席2名、欠席0名
第4回	決議の省略（みなし決議）手続きによる 議案の提案：12月10日 議案4件 決議があったとみなされた日：12月13日
第5回	決議の省略（みなし決議）手続きによる 議案の提案：1月28日 議案2件 決議があったとみなされた日：2月3日
第6回	招集：2月18日 開催：3月19日 議案10件 報告8件 理事総数10名：出席10名、欠席0名 監事総数2名：出席2名、欠席0名
第7回	決議の省略（みなし決議）手続きによる 議案の提案：3月24日 議案1件 決議があったとみなされた日：3月25日

3 評議員選任・解任委員会

招集：3月19日 開催：3月27日

新評議員氏名 比戸二郎

任 期：令和2年3月27日から令和3年6月に開催される定時評議員会まで
前任者である平石昭夫評議員（令和2年3月26日辞任による退任）の
残任期を適用

令和2年3月27日以降の評議員体制：11名

平林茂、眞下晶弘、比戸二郎、忝原方子、高見淑恵、荒木千恵美、
清野弘子、閑製久美子、石塚由江、山根聖子、藤城邦子

4 定款変更、規則・規程等の制定及び改正等 22件

- | | |
|---------------------------------|------------------|
| (1) 定款変更 | 令和元年11月27日大田区長認可 |
| (2) 非常勤職員就業規則の一部改正 | 平成31年4月1日施行 |
| (3) 準職員就業規則の一部改正 | 平成31年4月1日施行 |
| (4) 経理規程の一部改正 | 令和元年8月1日施行 |
| (5) 障害者生活ホーム預り金等管理規程の制定 | 令和元年8月1日施行 |
| (6) 障害者生活ホーム運営規程の一部改正 | 令和元年8月1日施行 |
| (7) 非常勤職員就業規則の一部改正 | 令和元年10月1日施行 |
| (8) 定款細則の一部改正 | 令和2年1月1日施行 |
| (9) 評議員選任・解任委員会の運営に関する定款細則の一部改正 | 令和2年1月1日施行 |
| (10) 事案決定規程の一部改正 | 令和2年1月1日施行 |
| (11) 評議員および役員の報酬に関する規程の一部改正 | 令和2年1月1日施行 |
| (12) 組織規程の一部改正 | 令和2年1月1日施行 |
| (13) 職員勤務評定規程の一部改正 | 令和2年1月1日施行 |
| (14) 文書管理規程の一部改正 | 令和2年1月1日施行 |
| (15) 組織規程の一部改正 | 平成31年4月1日施行 |
| (16) 懲戒委員会規程の一部改正 | 令和2年2月3日施行 |
| (17) 定款細則の一部改正 | 令和2年4月1日施行 |
| (18) 組織規程の一部改正 | 令和2年4月1日施行 |
| (19) 就業規則の一部改正 | 令和2年4月1日施行 |
| (20) 準職員就業規則の一部改正 | 令和2年4月1日施行 |
| (21) 非常勤職員就業規則の一部改正 | 令和2年4月1日施行 |
| (22) 給与規程の一部改正 | 令和2年4月1日施行 |

5 組合等登記令による法人登記

資産総額 1,679,651,093円 平成31年3月31日変更 同年6月26日登記

6 職員等の採用・転換・退職等

	正規・嘱託等	準職員	非常勤職員	合計
施設長等の採用	1			1
新規採用	17	5	28	50
転換	7	3	3	13
計(延べ)	25	8	31	64
	正規・嘱託等	準職員	非常勤職員	合計
施設長等退職	2			2
職員退職	17	3	11	31
計	19	3	11	33

7 昇格選考



・試験実施日：令和元年12月14日


・昇格選考判定委員会：令和2年1月29日

区分	3等級試験	4等級試験
A 有資格者	20人	13人
B 受験申込者	6人	0人
C 受験率	30.0%	0%
D 受験者	6人	0人
E 合格者	4人	0人
F 合格率 (E/D)	66.6%	-%

8 事業推進方針・重点推進事項について

大田幸陽会は、財務、地域、利用者支援と業務プロセス、人材の4つ視点から経営課題に取り組んでいます。また、今年度の事業推進方針は次の3項目です。

事業推進方針		
① 現場をマネジメント力、組織力で支える ② 自分たちで決めて、守る、実行する ③ 福祉サービスにとどまらない社会福祉事業の推進		
4つの視点	重点推進事項	主な課題
財務の視点 	○活力ある組織・経営基盤づくり →項目15・16参照	ガバナンス強化 法令遵守・働きやすい職場づくり 財務基盤と財務規律の強化
地域の視点 	○新規事業の取り組み・既存事業の機能強化 →項目9参照 ○地域公益活動の推進 →項目10参照	おおた障がい施策推進プラン連携 ティーラウンジすばる円滑受託 相談を軸とした拠点間ネットワーク 地域公益活動の推進

利用者支援・ 業務プロセスの視点 	○質の高い支援、虐待防 止・権利擁護の取り組み →項目 11 参照	寄り添う支援・自立型権利擁護への転換 虐待防止・人権委員会の推進 ○リスクマネジメント、苦情解決 対応→項目 13 参照 ○福祉サービス第三者評価 →項目 14 参照
人材の視点	○福祉人材の確保・育成・ 定着 →項目 12 参照	インターンシップ、就職相談会 研修計画の実施 働きやすい職場づくり

9 新規事業の取り組み・既存事業の機能強化

(1) 区立つばさホーム前の浦の機能等を再編・強化

・再編計画概要：大田幸陽会会館 3F・4F を改修、令和 3 年度運営開始する。

令和 2 年度中に改修工事・指定管理者公募が行われる。改修期間中は、緊急一時保護事業を区立プラム蒲田に一時移転し、事業継続実施する。

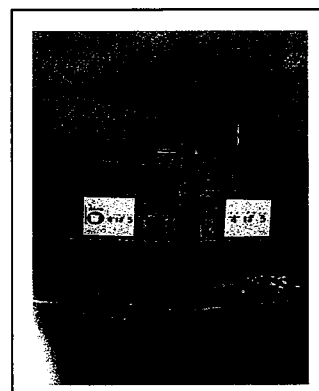
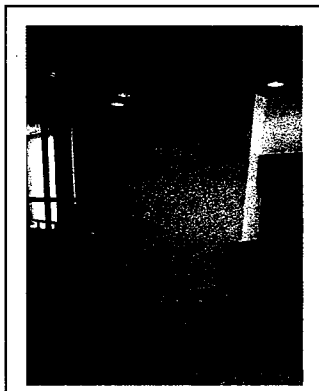
現 状（すべて法外事業）	再編強化後（すべて法内事業）
自立生活訓練（3 年利用・14 人）	滞在型グループホーム
短期自律訓練（2 週間利用・2 人）	（3 年利用期限・11 人<-5 人>）
緊急一時保護（6 人）	短期入所（11 人<+5 人>）

※法：障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

(2) ティーラウンジすばる（大田文化の森 1F）営業開始

・障害者雇用の実習受入 2 名、見学受入若干名に対応。

・9 月店舗改修（下記写真）をおこない、10 月 1 日リニューアルオープンした。



(3) ペーパーラボ作業受託開始

さわやかワークセンターで本年度から新規受託。

大田区役所本庁舎 2 階で週 2 回、リサイクル作業を行う。

※乾式オフィス製紙機「ペーパーラボ」：使用済みコピー用紙を、水を使わない製紙技術により新しい紙に生まれ変わらせる。

- (4) 「おおむすび縁市場（区役所1階）」販売サポートと共同受注作業開始
 昨年8月からスタートした「おおむすび縁市場（毎週1～3回不定期販売）」
 の販売サポートと大田区生産活動支援施設連絡会（おおた生産連※）の共同受注
 窓口担当を今年度から、さわやかワークセンターが行い、区内福祉施設の自主生産
 品を区役所内で販売する取り組みに寄与しています。

※大田区生産活動支援施設連絡会（おおた生産連）：

大田区内の障害者施設等による自主生産品及び役務の提供について情報交換
 しネットワーク化して共同受注・共同販売の実施や促進を行う。
 2カ月に1回会議を開催し、自主生産品の販路拡大や作業の受注窓口として
 受注作業の分配を行う。

- (5) 離職障害者の受入・就労支援

- ①さわやかワーク、のぞみ園 及び しいのき園の3事業所間連携により、
 のぞみ園で離職者受入1名、しいのき園で異動希望者受入1名を行った。
 ②志茂田福祉センターで離職障害者受入1名を行った。

- (6) 体験型グループホーム事業（男性1部屋）の円滑運営

生活ホーム・相談支援室・通所事業所間のネットワーク事業
 実績：7名延べ139日 グループホーム移行1事例、体験利用6事例
 ※前年度：6名延べ143日 移行2事例、体験利用4事例

- (7) 高齢障害者支援：ライフステージにあわせた切れ目のない地域生活継続支援

- ① 区立志茂田福祉センター：送迎モデル事業の協議12回。対象者に送迎試行し、
 1月から委託事業者による送迎に移行した。
 ② まごめ園：介護保険サービス併用利用する高齢者への送迎支援 年間207回
 ③ さわやかワーク：介護保険サービスの情報提供・サービス利用の支援 5名

- (8) 就労支援事業所の工賃向上

事業所名	今年度	前年度	増減
まごめ園（B型）	20,840円	21,766円	-926円
のぞみ園（B型）	45,876円	45,186円	+690円
さわやかワーク（B型）	41,789円	41,664円	+125円
さわやかワーク（移行）	38,712円	35,097円	+3,615円
しいのき園（B型）	28,262円	28,040円	+222円
志茂田福祉センター（B型）	12,919円	13,212円	-293円

10 地域公益活動の推進

- (1) 中間的就労の受入

はたらくサポートとうきょう「はたらく場登録情報」へ登録：申込み実績0

(2) 大田区社会福祉法人協議会（おおた福祉ネット）への参画

- ① 幹事法人として定例幹事会に出席：9回（2月・3月コロナ中止）
 - ・「子どもの長期休み応援プロジェクト」（初）の取り組み
8月19日～22日（4日間）：機動力を活かし「送迎」をサポートする。
春休み企画は新型コロナウイルス感染症予防のため中止。
 - ・第3回「ふくしのしごと市」：11月30日(土)実施・エセナおおた
参加13法人、来場者59人、ブース来場者91人、面接44人
 - ・情報交換会のエリア展開企画
- ② 全体会の企画協力と参加：7月3日(水) 社会福祉センター
24法人41名出席 今後はエリア展開を強化する
- ③ エリア情報交換会の開催 大森地区 2回実施：9月27日・2月3日
糺谷・羽田地区 1回実施：10月25日
- ④ おおたスマイルプロジェクト※「れいんぼう」※への協力
※大田区内の社会福祉法人が、地域の福祉的課題に連携して取り組むために組織したチーム
※ひとり親家庭の小中学生を対象に「生きる力を身に付ける」ための居場所づくり・学習支援事業

(3) 法人としての取り組み

- ① 移動支援従業者養成研修事業：無料低額の公益的取り組み
 - ・ケアサポート幸陽主催・年3回（6月・10月・2月）計画
第1回：6月15日（土）、16日（日）、22日（土）6名受講
第2回：10月12日（土）、13日（日）、14日（月）台風19号襲来のため中止
第3回：2月8日(土)、9日（日）、11日（火）27名受講
- ② フードバンク事業者との連携：本部、のぞみ園、さわやかワークセンター
おおたスマイルプロジェクト「れいんぼう大森」及び「れいんぼう久が原」
へ「お米」などフードバンク食材を提供する活動を月1回定例実施（継続）
- ③ 区内社会福祉法人の連携・交流促進
 - ・第17回法人職員全体研修会「午前の部」参加法人：4法人
大田区社協、池上長寿園、大洋社、有隣協会
 - ・有隣協会との活動連携：共生型ポールウォーキング講習会の企画実施
池上福祉園で「池上DEエクササイズ」を開催
6/29 13名、10/19 10名参加あり、2/15はコロナ予防で中止
 - ・池上長寿園との交流
池上長寿園ケア学会への出席 2月2日(日) 本部より2名

(4) 各拠点の取り組み：各拠点の「地域・関係機関連携」参照ください

(5) 福祉実習学生等の積極受入

	社会福祉士	介護等体験	人事院	保育その他	合計
のぞみ園	2名 38日	3名 15日	3名 15日	7名 72日	15名 140日
まごめ園	1名 8日	5名 25日	3名 15日	1名 1日	10名 49日
さわやかワーク	3名 90日				3名 90日

しいのき園	3名 69日	11名 55日		5名 58日	19名 182日
志茂田福祉センター				2名 24日	2名 24日
新井宿福祉園				13名 137日	13名 137日
池上福祉園	4名 94日	12名 60日	6名 30日	1人 12日	23名 196日
大森東福祉園	1名 24日	3名 15日		3名 36日	7名 75日
合計	14名 323日	34名 170日	12名 60日	32名 340日	92名 893日

参考：30年度年間 95名 743日、29年度年間 124名 911日

○「社会福祉相談援助実習カリキュラム合同説明会」の開催

目的：福祉人材・専門職育成

考え方：施設現場では、ケアワークとソーシャルワークが融合して支援が行われていることを、法人事業の全体を説明・見学する機会の中で体感する。

開催日時・会場：9月10日(火) 9:00~12:00 大田区立前の浦集会室

11月19日(火) 9:30~11:30 さわやかワークセンター

対象者：法人内事業所で社会福祉士実習を受けている学生 11名

(6) ボランティアの受入実績

のぞみ園	延べ 336名	池上福祉園	延べ 195名
まごめ園	延べ 243名	大森東福祉園	延べ 717名
さわやかワークセンター	延べ 74名	合計	延べ 2,829名
しいのき園	延べ 152名	参考：30年度年間延べ 2,963名 29年度年間延べ 2,451名	
志茂田福祉センター	延べ 290名		
新井宿福祉園	延べ 822名		

1.1 質の高い支援、権利擁護・虐待防止の推進

『社会福祉法人大田幸陽会における「障害者虐待防止のあり方」に関する答申書』（平成31年3月31日付、社会福祉法人大田幸陽会 障害者虐待防止特別委員会）による提言を受け、「法人」「事業所」「個々の職員」の三相における再発防止策について、下記の通り総合的な取り組みを継続実施した。

(1) 管理職ワークショップ開催（継続）：前年度4回実施済み

今年度は、虐待防止特別委員会の答申書及び提言を踏まえ実施した。

- ・第1回（通算5回目）：6月10日(月)午前 集会室
- ・第2回（通算6回目）：7月23日(火)午後 拠点施設長会後

(2) 虐待防止・人権委員会の取り組み

① 事業所虐待防止・人権委員会等の取り組み

- ・全事業所で定例または随時開催する体制を整えた。
- ・個別支援計画、身体拘束手続きの適正化、リスク管理、ヒヤリハット等と関連付け、法人レベルでは支援統括責任者会議で集約する体制を整えた。
- ・5つの「アクションポイント」取り組みシートにより集約をすすめた。

※1,【安心・安全な関係を築く】

- 2, 【気づく(感性)・聴く・察する(想像力)】
- 3, 【職員相互に学び合い、活かし合う】⇒事例検討が広がりだしている
- 4, 【関係性を活かす】
- 5, 【実践の過程を記録する、説明できる】

② 法人虐待防止・人権委員会

- ・代表者会議を9月26日(木)開催
- ・上記「アクションポイント」シート(7.19支援統括責任者会議集約版)及び個別支援計画における身体拘束適正化の進捗を確認。
- ・虐待防止チェックリストの実施についてワーク方式での活用を提案した。

③ 障害者虐待に関連する報道情報を「障害者虐待防止関連 NewS」として随時発行
今年度は、サイボーズを活用して、1号から9号まで発行した。

④ 障害者虐待防止・権利擁護研修

- ・6月25日：新規採用職員対象に実施 講師：吉野支援係長
受講者19名(正規職員：13名、準職員：2名、非常勤：4名)
- ・1月24日(前の浦集会室)・31日(池上福祉園)：全職員を対象に実施
講師：社福)横浜やまびこの里 相談支援事業部 部長 志賀利一氏

実施目的概要

「虐待をしてはいけない」だけでなく、「具体的にどのような支援をすべきか」、専門的な支援のスタンダードを学ぶ。

実施結果：2日間合計213名受講。

講師の実際の経験(構造化・障がい理解に関する)を交え、分かりやすく「障がいを文化としてとらえる」視点や冰山モデルを使って支援を考えてみることの面白さが伝わった。

(3) 支援統括責任者会議の取り組み

- ・3つのタスクグループを設定し、関連する委員会や他の会議体と交差する会議体として、事業所の取り組み状況確認や課題の検討を行い、経営会議・拠点施設長会に定例報告を行った。

タスク名	取り組み実績
虐待防止推進	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所虐待防止・人権委員会の推進状況確認 ・ヒヤリハット活動・事例検討⇒リスク集計と月次報告 ・苦情解決対応・事例検討⇒月次報告 ・身体拘束ゼロに向けた取り組みの推進継続⇒支援プロセスに反映 ・虐待防止研修を踏まえた「アクションのポイント取り組みシート」の集約と共有(事業所単位の「経営会議」に向けて)
サービス提供ガイドライン改訂	<ul style="list-style-type: none"> ・「サービス提供ガイドラインの改訂(案)」の作成と提出 ・改訂版の法人事業所周知 ・事業所サービス再検証スケジュールの策定・提案・進捗管理
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善に向けたICT活用検討 ・他法人・企業視察及びソフト開発会社のプレゼン ⇒(社福)東京蒼生会、NDソフトウェア(株)、内田洋行、他2社

- ・ 主な結果：虐待防止や身体拘束を伴う可能性のある支援の検証をはじめとした支援過程の管理について共通認識を持った。支援統括責任者としての悩み・もやもやの共有、検討の機会を設け認識共有ができた。各事業所の状況、課題、取組み、各委員会の情報を共有することで、事業所のサービス管理及び事業推進、課題解決、改善提案等に対して横断的に思考する経験機会となった。
- ・ 主な課題：虐待防止を中心としたサービス管理の推進および事例検討の促進
サービス提供ガイドライン改訂版の浸透と活用
ICT を効果的に導入して、働き方の再検討及び業務改善の推進

1 2 福祉人材の確保・育成・定着

(1) 採用

① 計画的な人材確保・採用

- ・ 採用専用法人ホームページ活用（継続）
- ・ 新規採用等人材確保の動き

4月13日 マイナビ医療・福祉業界 就職セミナー新宿工場 参加1名

6月22日 日本社会事業大学同窓会就活フェア参加2名

6月23日 マイナビ医療・福祉業界 就職セミナー品川インターシティホール 参加2名

7月29日 法人採用説明会：中止

8月30日 採用面接：新卒内定1名

② 中途採用（転職者支援）対応：正規・準職員採用（内定含む）17名

- ・ WEB 求人採用13名（E社8名、M社5名）
- ・ ハローワーク求人採用3名
- ・ その他1名

(2) 育成研修

① 東京都経営青年会（東京都社会福祉協議会 社会福祉法人経営者協議会）加入（継続）

6月7日（金）東京都経営青年会総会・令和元年度セミナーⅠ出席1名

テーマ：課題解決へのアプローチ～たとえば広報を通して

講師：脇淵竜舟氏（社会福祉法人頭堂角舎かみいしづこどもの森園長）

7月24日（水）・25日（木）全国社会福祉法人経営青年会基礎講座出席1名

テーマ：基調報告・チームマネジメント・法人危機管理・財務視点・労働法

講師：梅野高明氏（全国経営青年会会長） 他4名

2月7日（金）特別講演会出席1名

テーマ：日本の貧困の現実～福祉関係者はどうするべきか？

講師：中村淳彦氏（ノンフィクション作家）

② 試用期間職員への丁寧なOJT研修と育成面談の実施（継続）

③ 階層別研修等の実施状況

- ・ 採用時研修：4月1日・・・項目15(1) ガバナンス強化 参照
- ・ 法人の原点研修：6月27日・・・項目15(1) ガバナンス強化 参照

- ・第17回法人職員全体研修会：7月13日 別紙（16ページ）参照

○以下、(株)ツクイスタッフへの委託研修として実施

- ・新入職員コミュニケーション研修：8月7日
- ・1～2等級コンプライアンス研修：10月11日
- ・3～4等級コンプライアンス研修：11月16日
- ・3～4等級ハラスメント防止研修：12月12日
- ・管理職層研修：12月23日

④ 事務担当者向け研修会の実施

- ・事前アンケートを踏まえて研修テーマを設定、全事務職員を対象に計4回実施
 - 第1回 社会福祉に関する諸制度：11月22日
 - 第2回 IT関連・PC操作の諸知識：12月18日
 - 第3回 人事労務関連の基礎知識：1月29日
 - 第4回 経理財務関連の基礎知識：2月26日

(3) 定着支援

① 資格取得支援（継続）

社会福祉士等国家資格取得者の割合：今年度46.6（38.9）％に達した。

4月1日現在の福祉士資格取得者：延べ99名（82名）

うち正規・準職員：延べ90名（75名）/193名＝46.6％（38.9％）

② 試用期間職員への期間中面談の実施・試用期間終了の通知（継続）

(4) 事例検討の推進

ファシリテーター養成「深谷塾」：深谷美枝明治学院大学教授

- ・塾生：各事業所推薦の職員11名で構成

今年度は、開催事業所の事例を当該事業所職員も参加して行った。

- ・第1回4月25日（木）池上福祉園
- ・第2回6月27日（木）のぞみ園
- ・第3回8月29日（木）大森東福祉園
- ・第4回10月31日（木）まごめ園
- ・第5回12月19日（木）さわやかワークセンター
- ・第6回3月26日（木）池上福祉園

1.3 リスクマネジメント、苦情解決対応

(1) リスクマネジメント集計

集計方法を次の内容で改定した。

- ・インシデントをレベル1～2とし「にやりホット～ヒヤリハット」を把握する
- ・アクシデント（事故）をレベル3～5とし、入力画面を区別した。
リスク原因、気づく過程、防げた（防げなかった）結果について、
分かりやすい情報共有ツールとする。
- ・事故報告書（法人及び大田区、東京都への提出）様式を入力と一括連動させた。

効果及び結果

- ・ 良き支援に係る情報及び虐待防止に役立つ情報の共有と活用が出来る
⇒ 会議等の情報共有及び検討場面にて活用できる
- ・ 事故報告書はサイボウズ内アプリで作成できる為、業務改善に繋がる
⇒ 事故報告時に活用

R1.4～9 上半期		リスクレベル				
		1	2	3	4	5
4月	140件	26	80	26	8	0
5月	126件	18	92	11	4	1
6月	137件	20	98	16	3	0
7月	134件	23	85	21	4	1
8月	133件	28	84	18	3	0
9月	123件	19	76	24	2	2
小計	793件	134	515	116	24	4
事故未満: 649 事故処理: 144		649		144		
R1.10～3 下半期		リスクレベル				
		1	2	3	4	5
10月	115件	16	79	16	4	0
11月	138件	21	83	28	6	0
12月	131件	36	66	21	8	0
1月	103件	16	70	11	5	1
2月	148件	18	117	13	0	0
3月	132件	11	98	14	8	1
小計	767件	118	513	103	31	2
事故未満: 631 事故処理: 136		631		136		
合計	1,560件	252	1028	219	55	6
事故未満: 1,280 事故処理: 280		1280		280		

インシデント	レベル1	にやりホット～ヒヤリホット
	レベル2	ヒヤリハット
アクシデント	レベル3	ケガ、破損等具体的な損害が発生した事故
	レベル4	他機関との連携が必要な事故
	レベル5	救急対応、重大な事故

レベル5事例6件の概要

日付	種別	事例概要
5/2	生活介護	体調不良のため救急車要請、病院に搬送。そのまま入院。
7/26	生活介護	体調悪化-嘔吐や痙攣があり救急車対応。明確な原因は不明。 体調が落ち着き家族と帰宅している。
9/26	生活介護	宿泊先でチアノーゼ、体の震えあり緊急搬送。
9/27	GH	てんかん発作により転倒。頭部を強打した可能性がある為、救急車要請し病院へ救急搬送。夕方帰寮している。
1/30	生活介護	職員の転倒事故（走り出した利用者についていこうとした際、床に足を滑らせ、頭部と腰を強打）による救急車要請、検査結果、異常なし。
3/13	入所	照明器具から白煙が出る。消灯・初期消火を行い、消防署連絡。 火災認定となり鑑識が入る。器具の経年劣化によるものとされた。

(2)苦情対応：各事業所事業報告の「権利擁護・虐待防止の取り組み」の
苦情解決報告を参照

1 4 福祉サービス第三者評価受審について

受審事業所	評価機関	結果報告書
まごめ園	(株)日本の福祉ネット	2月28日
区立しいのき園	(株)日本の福祉ネット	2月14日
区立大森東福祉園	特定非営利活動法人 福祉推進機構アシスト	1月10日
区立志茂田福祉センター	特定非営利活動法人 NPO 人材開発機構	12月27日

第6回理事会報告第3号、第3回評議員会報告第3号で結果報告書を報告済み

1 5 活力ある組織・経営基盤づくり

(1) ガバナンスの強化

① 理念経営の浸透、法令遵守

○採用時研修：4月1日 講師：常務理事

対象13名

- ・理念・ビジョン・ミッション・第4次プラン・H31方針説明
- ・障がい理解、法人の成り立ち・歴史・原点と法人の現況及び大田区概要
- ・人材の育成：人材像・キャリアパス、生の声・研修計画
- ・就業規則（服務規定）

○法人の原点研修：6月27日 講師：佐々木副理事長

受講26名（正規職員・準職員：16名、非常勤：10名）

- ・「大田区知的障害者育成会 創立60周年記念誌」
- ・「ひろげよう心のバリアフリー 知的障害ってなあに」

② 「職員相談窓口」体制の再編

1, 相談窓口担当理事：中川成美理事

事業所巡回：9月から1月で5回実施、2月以降はコロナ予防のため延期
9/12 池上福祉園、10/10 しいのき園、11/21 志茂田福祉センター、
12/12 のぞみ園、1/16 大森東福祉園

2, 相談受付担当者：各事業所の推薦者から16名（男性7・女性9）を
選出した。10月1日付けで任命する。

任期：令和元年10月1日～令和3年3月31日

(2) 財務規律の強化

① 会計顧問による会計点検の定期実施および月次決算の経営会議報告

- ・都度会計顧問のアドバイスを受け、経理の精度向上を図りながら、月次決算内容を経営会議で情報共有し、施設運営の参考指標としている。

② 情報公開

- ・「電子開示システム」による財務情報等の公開 3 年目。所轄庁とのスムーズな連携の下で、内容を精査した公表が出来た。

③ 会計監査人の令和 3 年度設置に向けた対応

- ・業務点検について、テーマ毎に担当者ミーティングを計 5 回実施し、導入までに改善すべき課題の抽出を終えた。

(3) 働きやすい職場づくり（活力ある持続的発展に向けた人事・雇用制度の整備）

① ハラスメント防止に係る啓発・周知（継続）

啓発・周知を実施。

② 資格取得支援（継続）

年度初めに制度利用を周知。利用申し込み者 4 名。

③ 「TOKYO 働きやすい福祉の職場宣言（※）」の取り組み

前年度 3 月下旬から、福祉財団ホームページ上に情報公開される。

申請事業所は、下記「宣言事業所シール」を玄関等に張り出している。



※東京都の制度：働きやすい職場づくりに取り組むことを宣言する高齢・児童・障害分野の事業所の情報を学生や求職者に広く公表することで、人材の確保と定着を応援する制度。

④ 年次有給休暇の取得義務化への対応

「働き方改革（改正労働基準法）」が新年度 4 月 1 日から施行され、年次有給休暇の取得が義務化されることに対応し、就業規則を改正施行した。

⑤ 住居手当の改正

若年層への配分を厚くする改正を行い、将来に向けた資産形成に寄与することで長く勤められる職場づくりを目指した。

(4) 効率的な働き方のバックアップ

① 勤怠管理システム導入

- ・勤怠管理システム「クロノスパフォーマンス」及び申請承認サービス導入決定（8 月）、9 月導入作業、12 月 IC タイムカード打刻テスト開始、2 月本格稼働を行った。

② 無期転換ルールの導入により「働き方の選択肢」を増やす

- ・平成 31 年 4 月 1 日より無期転換した職員数：19 名

③ 法人事務担当者会議・情報 PT の取り組み

- ・勤怠管理システム導入にあたり、各拠点のシステム設定を支援し、導入円滑化を図った。

- ・台風 15 号による浸水被害 (9/9) のあったラナハウス西糞谷 1 階事務所を、大田幸陽会会館 1 階のぞみ園内に一部臨時移設し、事務スペースを開設支援した。

1 6 指導監査・監査等

- (1) 社会福祉法人指導連絡会への事務局職員出席
 - ・第 1 回：8 月 7 日開催 1 名出席
- (2) 令和元年度後期財政援助団体等監査 9 月 26 日付け実施通知
 - ・大田区立大森東福祉園 10 月 23 日実施
 - ・大田区立しいのき園 10 月 30 日実施
 - ・まごめ園 10 月 31 日実施
 - ・法人本部事務局 11 月 15 日実施
- (3) 東京都指導検査
 - ・大田区立池上福祉園 10 月 25 日実施
- (4) 社会福祉法人指導監査 11 月 27 日実施
 - ・12 月 12 日付け結果通知：文書による指導事項はなし

1 7 寄附の受領

4 件 2,000,000 円

寄付者の氏名・団体名 (敬称略)	寄付者の属性	寄附金額
一般社団法人大森倶楽部 理事長 石塚近士	5	1,000,000 円
社会福祉法人大田幸陽会 理事 河野桃弘	1	500,000 円
大田区手をつなぐ育成会 会長 閑製久美子	5	200,000 円
社福) 大田幸陽会後援会 会長 松原茂登樹	5	300,000 円

※寄附者の属性の内容：1 法人の役職員、2 利用者本人、3 利用者の家族、4 取引業者、5 その他

1 8 会議等の開催

- (1) 定款細則で定める会議等
 - ① 経営会議 12 回
 - ② 法令遵守推進委員会 5 回
 - ③ 懲戒委員会 1 回 (小委員会)
- (2) 組織規程で定める機関の会議等
 - ③ 法人事業企画調整室 83 回
 - 全体会 12 回
 - 居住の場建設整備事業部門 32 回
 - (つばさホーム関係 25 回、GH 関係 4 回、相談関係 3 回)

- 法人事業の多機能総合化部門・・・39回
 - ・池上福祉園機能拡充関係 14回
 - ・さわやかワークセンター事業関係 10回
 - ・大田幸陽会会館機能見直し関係 15回

④ 拠点施設長会・・・12回

⑤ 職階・職種別会議

- ア 支援統括責任者会議・・・11回
- イ 法人事務担当者会議・・・8回
- ウ 看護師連絡会・・・3回
- エ 栄養士連絡会・・・4回
- オ 相談支援従事者会・・・4回

⑥ 専門委員会

- ア 研修委員会・・・12回
 - 事例検討ファシリテーター養成深谷塾・・・6回
- イ 法人虐待防止・人権委員会(代表者会含む)・・・4回

第 17 回法人職員全体研修会 結果報告

日 時：令和元年 7 月 13 日(土) 9 時 25 分～17 時 15 分

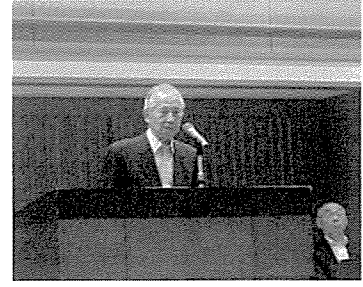
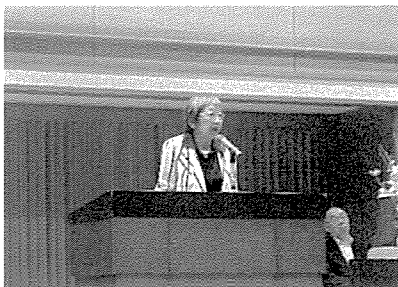
会 場：大田区立池上会館(集会室)

出席数：総数 213 名(職員 193 名、法人評議員・第三者委員・役員等関係者 12 名、
後援会 2 名、来賓 6 名)

テーマ：「本人に寄り添う支援」

1) 全体会 開会

- ・黙 禱：7 月 1 日ご逝去された故・岩本紀子相談役(初代理事長)のご冥福を祈る
- ・開会及び理事長就任の挨拶：鷺頭理事長
- ・理事長退任の挨拶：河野理事(前理事長)
- ・法人評議員、第三者委員及び後援会役員、並びに法人役員の紹介：佐藤事務局長
- ・来賓紹介：(社福)大田区社協、(社福)池上長寿園、(社福)大洋社、(社福)有隣協会
- ・新規採用職員(32 名)の紹介：勢古事務局次長



2) 永年勤続表彰式(10 年勤続表彰)：表彰者 6 名(敬称略)

- 深堀俊朗(志茂田福祉センター)
- 林輝美(ケアサポート幸陽)
- 浅沼房恵(さんさん幸陽)
- 与儀ひとみ(さんさん幸陽)
- 吉田和世(新井宿福祉園)
- 志水里絵(新井宿福祉園)



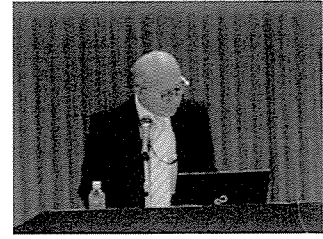
3) 資格取得奨励金の目録授与式：目録授与者 5 名(敬称略)

- 北尾暢之(社会福祉士)
- 長塚宏実(社会福祉士)
- 竹生和紗(社会福祉士・介護福祉士)
- 鯉淵貴行(介護福祉士)
- 水越幸彦(精神保健福祉士)



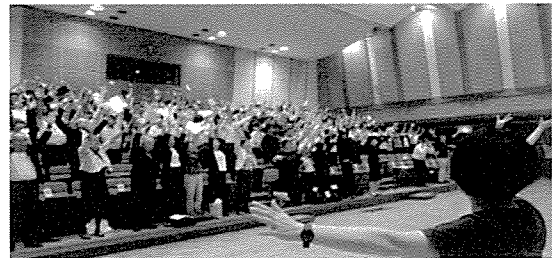
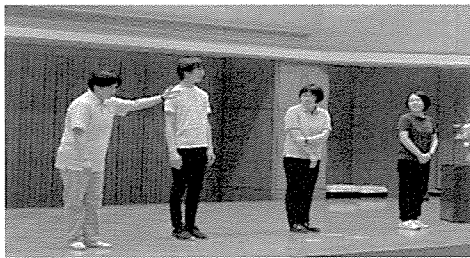
(別紙)

- 4) 法人事業説明：佐藤常務理事
「寄り添おうとする支援の経験共有とその継承・発展」
～理念・地域共生社会の実現に向けて～



- 5) 講演「グレーゾーン支援（虐待ストレスの支援）の淵を歩いているかもしれない
あなたへ、歩いたことのある私から」
講師：深谷美枝氏（明治学院大学教授・深谷塾【当法人福祉人材育成塾】講師）

- 6) ロールプレイによる事例紹介
支援場面を想定した演劇をタスタス会（今回の事例紹介の為に結成）が披露。



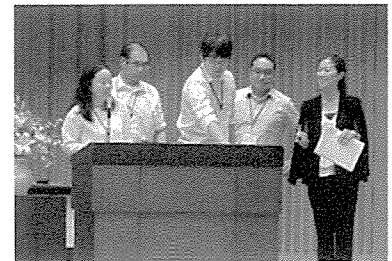
- 7) 分科会（28グループ）
タスタス会が演じた内容について、等級別全28グループに分かれ事例検討。



- 7) 全体会（分科会発表及び各グループ講評）
28グループから3グループを選出し検討結果を発表。グループ毎の特色がでていた。

【講評をいただいた講師2名】

山崎美貴子氏（東京ボランティア市民活動センター所長/神奈川県立保健福祉大学顧問・名誉教授/法人理事）
深谷美枝氏（明治学院大学教授・深谷塾【当法人福祉人材育成塾】講師）



- 8) まとめ、講評
最後に、深谷教授から「ピンチはチャンス！」山崎先生からは利用者が暮らしやすくするためにどうしたらよいか、個別支援と地域支援を一体的にみて、地域を変えていくことが必要であるというメッセージをいただき閉会。